

道徳の時間学習指導案

指導者 竹原市立竹原西小学校
新井 秀峰

1 学年・組

第4学年1組

2 主題名

『正直な心で』1 - (5)
[正直に、明るい心で元気よく生活する]

3 ねらい

宿題がはかどらないときの和夫の葛藤する気持ちを話し合うことを通して、常に正直に行動し、明るい心で生活しようとする態度を養う。

4 資料名

『多かったおつり』 出典：「生きる力」5年（大阪書籍）一部改作

5 主題設定の理由

主題観

「正直に明るい心で生活する」とは、偽りなく、素直に自分の良心に従い、自分自身や社会生活を大切にすることである。しかし、実際には、自分が不利益な立場に立たされたとき、自己を有利にしようと判断して行動し、良心の呵責に悩む場面が見られる。

中学年の子どもたちは、他人の正直な行動に接したとき、心を打たれ、自分もそのようにしたいと思っている。また、だれも見えていなくても、裏表なく行動することが大切であることも理解はしている。しかし、心の弱さから本当のことを言えなかったり、利害にとらわれて正直な行動ができなくなったりすることがある。

そこで、自分の行動を省みて正しい判断ができるようになるこの時期に、正直な行動を選択する態度を育てることが必要である。正直な行動を選択することによって、満足感やすがすがしさを得ることができることに気付かせ、明るい心で元気よく生活しようとする態度を養っていきたい。

児童観

本学級では、『正直に言ってよかった』と思った経験がありますか。』というアンケートの設問に対して、55%の児童が「ある」と答えた。さらにその内容を聞いてみると、「借りたものをこわしてしまったけど、正直に言って謝ったら、許してくれた。」「家のお皿を割ってしまい、正直に言うと怒られなかったから良かった。」という答えが多かった。また、この結果から児童の内面を考察すると、正直に行動することに対してあまり積極的ではなく、正直に行動していると答えた児童も、「怒られたくない」「何かいいことがある」といった外発的な動機によって、正直に行動していることが多いと考えられる。

そこで、本学級の児童には、正直な行動をすることがいかに心を晴れやかにし、明るく元気な生活を過ごすことにつながるかということに気付かせ、正直に生活しようとする態度を養いたい。

資料観・指導観

本資料は、買い物をして500円多くもらったという事実を家族に自慢そうに話したところから、主人公の気持ちの変化を追う話である。母は「多くもらったお釣りを返したほうがいい。」と言うが、兄は「ぼく」の気持ちを代弁し、「店の人が間違えたのだから、返さなくてもいい。」と言う。「ぼく」も兄の考えが正しいと考えていたが、「返さなければいけないのかな。」「返さなくてもいいじゃないか。」と葛藤しながら、宿題をやり終える。そこへ、隣に住む女の子が母親と一緒に、多くもらって

しまった折り紙を返しに来た。そのことから、葛藤した心に整理をつける和夫の心の変容が描かれている。

指導にあたっては、中心発問を「宿題をしていた和夫はどんなことを考えていたのでしょうか？」として、「お店の人が間違えたのだから、ぼくは悪くない。」という気持ちと、「たとえお店の人が間違えても、気付いたのだから返せたはず。」という心の葛藤に共感させたい。自分が和夫の立場に立ったらどうするのかをワークシートのハートに表すことで、一人一人に自分の考えをもたせる。そこから、「正直に言って返す」「ぼくは悪くないから、返さない」という両方の感じ方、考え方について話し合えるようにしたい。また、両方の考え方を聞くことによって、自分の考えを深めさせ、正直に行動することの大切さに迫らせたい。

最後に、「500円を握り締めたぼくは、何を考えていたのでしょうか。」と問い、正直に行動しようとする決心に共感させることによって、正直で誠実な行動をすることによって得られる満足感やすがすがしさに気付かせ、明るい心で元気よく生活しようとする態度を養うというねらいに迫っていきたい。そのために、友子が折り紙をもらった場面を省いて資料提示する。

6 学習過程

準備物 写真、さし絵

段階	学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
導入	1 正直に話をした経験について話し合う。	本当のことを言って良かった経験はありますか？	
展開前段	2 資料前半を聞き、おつりを多くもらったぼくの気持ちを考え、話し合う。	おつりを多くもらった時、ぼくはどう思ったでしょうか？ <ul style="list-style-type: none"> ・ A, やったあ。 ・ A, 得したなあ。 ・ A, この500円で何か買おう。 ・ A, ぼくが悪いんじゃない。 ・ B, どうしよう。 ・ C, 返しにいいのかな。 	おつりが多かったことを捉えさせるため、お金の模型を使って資料提示を行う。 得したと感じているぼくの気持ちをおさえる。
	3 資料後半を聞き、宿題をしている時のぼくの気持ちを考え話し合う。	宿題をしていた和夫はどんなことを考えていたのでしょうか？ <ul style="list-style-type: none"> ・ A, 店の人が間違えるのが悪い。 ・ A, 今さら行くのも面倒くさいなあ。 ・ B, 今から行ったら、怒られるかも。 ・ B, どうしよう。 ・ C, お母さんに言われたから、返そう。 ・ C, お店の人が困るから返そう。 ・ C, 返した方が気持ちがすっきりする。 	正直に言おうという気持ちを青で、言わないという気持ちを赤で、ワークシートのハートを塗り分け、迷っている和夫の気持ちを考えさせる。児童の発言をとらえて補助発問を投げかけて揺さぶり、さらに深く考えさせるようにする。
	4 資料後半を読み、500円を握り締めた時のぼくの気持ちを考	500円を握り締めた時、ぼくは何を考えていたでしょうか？ <ul style="list-style-type: none"> ・ B, 返そうかな、迷うなあ。 ・ C, 友子ちゃんだって返したんだ。 	友子の行為から和夫が何を感じ考えたかについても話し合う。 正直に言うことで、心が

	え話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ C, このままだと心が晴れない。 ・ C, 返してスッキリしよう。 	すっきりするというこ とに気付かせる。
展 開 後 段	5 教材文の終末 に続く文章をワ ークシートに書 く。	「そっと握った。」の続きの話を書きま しょう。	話の続きを考えさせ,そ の理由や和夫の気持ち についてもふれること により,正直に行動しよ うとする態度につなげ る。
終 末	6 教師の説話を 聞く。	先生の話をお聞きしよう。	ねらいとする価値をあ たためる。

7 板書計画

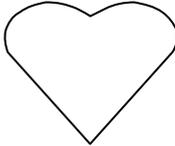
握り締めてい
る絵

ぼく

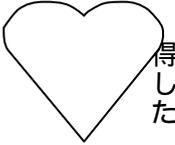
返さない

多かつたおつり
ぼく・母・兄が
話をしている
絵

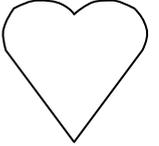
返しに行く



すっきりしない
どろぼうになる



得した
今さらいくのも
悪くない



店の人は気付いていない

ぼくは、二階へ上がり、つく
えの引き出しから五百円を取
り出して、そっとにぎった。
そして、和夫は、・

返しに行こう

得した
悪くない
どうしよう